

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

中岳第一火口では、南側火口壁からごく少量の火山灰を断続的に噴出しています。その他の観測結果に特段の変化は認められず、火口周辺に影響を及ぼすような噴火の兆候は見られません。

阿蘇山では、噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）が継続中です。

火口内では火山灰、火山ガス等の噴出が見られることから警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

活動概況

・中岳第一火口の状況（図 1～3）

12 月 23 日夕方に阿蘇火山博物館より、中岳第一火口南側火口壁の噴気孔から断続的に火山灰が出ているとの通報がありました。24 日に実施した現地調査では、微量の火山灰が積雪の上で確認されました。この噴出は、噴気活動の一時的な活動の高まりにより火口内で発生した局所的な活動であり、23 日以降も断続的に観測されています。また、本日（26 日）15 時に実施した現地調査では、中岳第一火口南側火口壁の噴気孔から、ごく少量の火山灰を含む噴気が高さ 70～80 m 程度上がっているのを確認しました。なお、火口縁で確認された微量の火山灰は、強風により飛散したものとされます。

中岳第一火口の湯だまり¹⁾量は 9 割、表面温度²⁾は 44 で、特段の変化はありませんでした。

・噴煙活動の状況（図 3）

阿蘇火山博物館に設置している遠望カメラによる観測では、有色噴煙は確認されず、噴煙活動に特段の変化はありません。12 月以降はごく少量の白色の噴煙を火口縁上概ね 300m まで上げています。

・地震・微動活動の状況（図 3）

孤立型微動³⁾は、12 月 7 日までは一日あたり概ね 100 回を超える状態で経過していましたが、その後は一日あたり 50 回程度に減少しています。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性連続微動の振幅は小さい状態が続いています。

・火山ガスの状況（図 3）

12 月 16、25 日に実施した火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり 200～400 トンと少ない状態が続いています。

1) 活動静穏期中岳第一火口には、地下水などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいます。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少や濁りがみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起こり始めることが知られています。

2) 赤外放射温度計で観測しています。赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

3) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5～1.0 秒、継続時間 10 秒程度で振幅が 5 μm/s 以上のものを孤立型微動としています。



図1 阿蘇山 12月24日の現地調査（南側火口縁から撮影）
中岳第一火口南側火口縁で微量の火山灰を確認しました（図中の○）。



図2 阿蘇山 12月26日の現地調査（南西側火口縁から撮影）
中岳第一火口南側火口壁からごく少量の火山灰を含む噴気を確認しました（図中の○）。

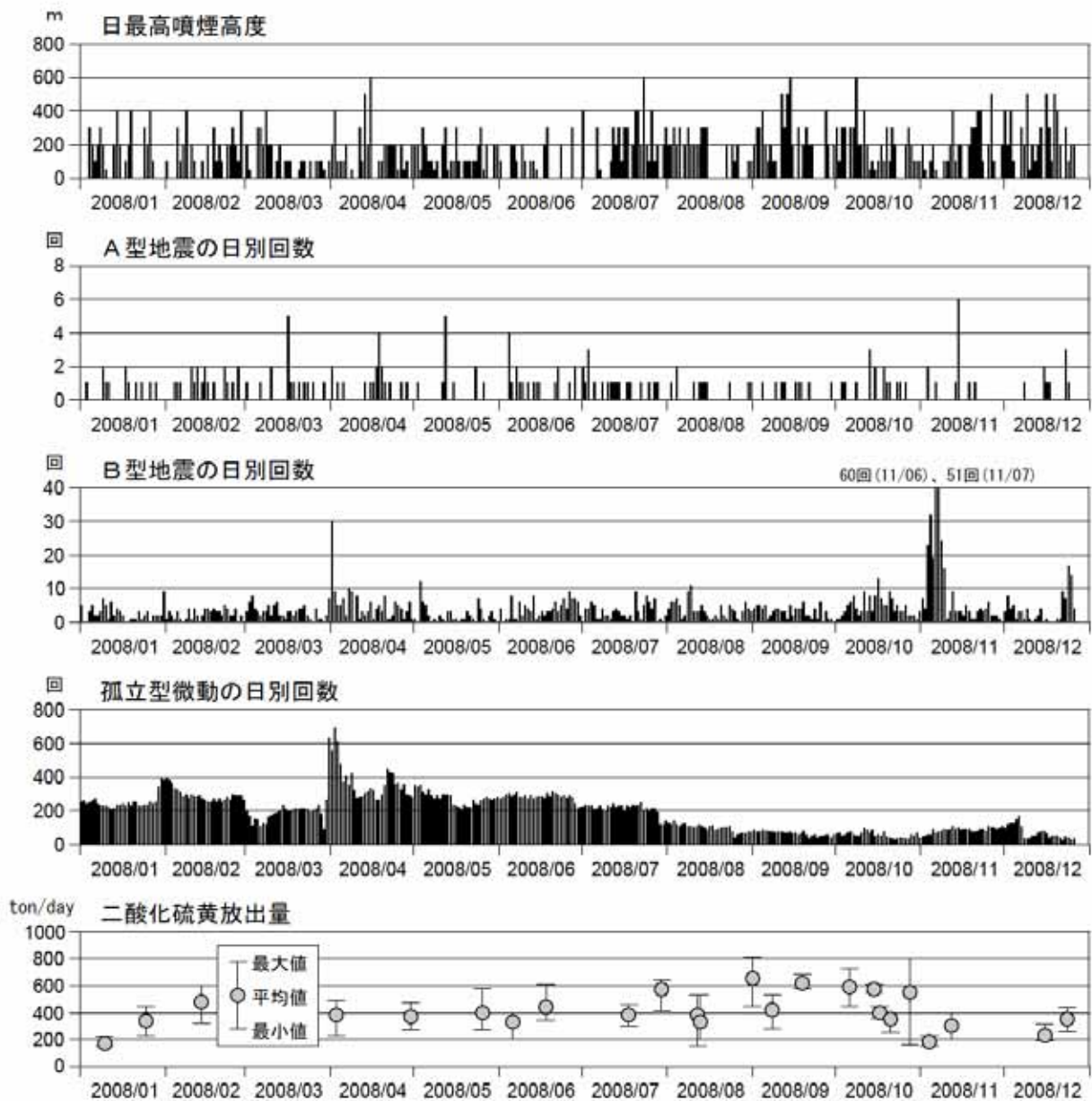


図3 阿蘇山 火山活動経過図(2008年1月1日～2008年12月26日15時)